

巻頭言

どこに向かうか日本丸

会長 山崎 學



内閣改造したのに岸田政権の支持率は一向に改善しない。長男・自民党議員の不祥事に始まり、副官房長官関連疑惑、「エッフェル姉さん」問題等で支持率はサミット時点から大幅に低下し、心機一転と内閣改造したが「ドリル優子」と揶揄される将来の女性総理大臣候補議員の後援会疑惑問題が蒸し返され、念願の衆議院解散に目途が立たない状態が続いている。今回の支持率低下はデジタル庁のポカから始まったマイナンバーカード問題に端を発し、政府税制調査会が出した中間答申に書かれた「サラリーマン増税案」、外圧に負けて採択したLGBT法案等で保守本流から見放された結果ではないかと推測している。

そもそも親中派と目される自民党リベラルが気に入らないし、二世・三世議員の政治屋を生業にする議員が多くなり、加えて小沢一郎の二大政党制などという甘言にはまり中選挙区制から小選挙区制に制度変更したことによりあたかも藩閥制度に先祖返りして、親族持ち回りで小選挙区のうま味を独占できる状態になってしまった感がある。この結果、市議会・県議会というドブ板選挙で国会議員になる党人政治家の出る幕はなくなり、「乳母日傘で東京育ちのボンボン議員」が誕生する結果になってしまった。

しかし、かつて民主党政権の悪夢を覚えている国民にとって自民党に代わる国民政党がないことはさらなる悲劇である。選挙区で落選し比例で復活当選した議員が大きな顔で天下国家論を語っているのを見ると記事にするマスコミにも節操のない議員本人にも腹が立つ。少子高齢化による社会保障制度の危機は少子高齢化が予想された50年以上前から分かっていたことである。運用する才能もないのに年金資産を食いつぶした社会保険庁の不祥事で年金基金は大幅に消失し、多くの国民はわずかな年金で生活することを余儀なくされ、小泉内閣で始まった市場原理主義社会を実現した結果は終身雇用制度が崩れて大幅に非正規雇用者が増加し、非正規雇用者の貧困化が進み、非正規雇用者の成婚率は正規雇用者の1/5と少子化の大きな原因となっている。医療の現場でも2年に一度の報酬改定といった公共料金なみに制限された中で、急激な物価・人件費・水道光熱費高騰に対応するすべのないまま放置されている。能天気な岸田総理は令和5年の春季ベースアップで経団連に5%アップを要望したし、最低賃金を1,500円まで引き上げる意向を示し、お調子者が追隨して最低賃金を全国一律1,500円になどと妄言をいい始めている。

医療業界は令和6年の診療報酬改定で毎年5%昇給でき、最低賃金1,500円を全国一律に支給できる改定を政府に要求するべきである。先だって令和6年の診療報酬に対する基本的な考え方

の論議が社会保障審議会医療部会で始まった。物価上昇に伴う生活関連物資の高騰による莫大な消費税収入、企業業績が順調に推移し、法人税の増収、給与引き上げによる所得税収入の増加等で令和6年度は大幅な税収の増加が見込まれており、診療報酬改定は大幅な引き上げが必要であると力説したが、医療関係者からの援護もないままに終了してしまった。

残念至極である。